

ホッケー大国の第一印象

お母様のミカさんにお聞きしたところ、稜大君がオーストラリアのパスへ行つて間もなく「日本に帰りたい」と言つてきたそうです。驚いて、なぜかとよく聞いてみたところ、稜大君の年齢だとオーストラリアのクラブチームは、週に1回の練習と、週に1回の試合があるだけで、他の日にはホッケーができないということ。ホッケーがしたくて留学したが、こんな状況なら、毎日練習できる日本に帰りたいということだったようです。

息子の言葉に、積極的で頼もしさを感じた反面、世界ランキング1位の国では、練習は週に1回しかないということに、愕然としたと、その当時の様子を振り返っていました。周囲の働きかけもあつて複数のチームに特別に参加させてもらうなど、ホッケーができる日数を何とか増やし一段落。しばらく落ち着いていたようですが、9月にまた「日本に帰りたい」と言つてきました。なんと今度は、シーズンが終わつてしまったため、来年の4月までホッケーが半年間できないということでした。またまた、周囲の方たちにお願ひし、社会人のインドアホッケーのチームに入れてもらつてホッケーのやれる環境を確保できました。

あまりホッケーをやつていない国なのに、なぜ世界で勝てるのか？ 実は、

稜大君は逆にこの辺りに強さの秘密があるのではないかの思いを持ちはじめたそうです。なぜ、子どものころに週1回の練習で、大人になったら世界No.1になれるのか？ これが解明できれば、日本も世界で勝つことができるようになるかもしれませんね。

将来に向けて

大学は日本の大学に行きたいと稜大君は言っていますが、いずれにしても日本ホッケー界において初めての挑戦です。稜大君のチャレンジが成功したら、また次の誰かが留学するかもしれません。今度は別な国に行くかもしれません。そうやって海外に住んでホッケーを学んでくれた子が、日本に戻つて新しい風を吹かせてくれる。何だか、夢の広がる話ですね。ホッケーマガジンとしても、継続して注目していきたいと思っています。

【広報委員会インタビューレポート】

昨年、名古屋市出身の一人の

中学生・津田稜大(つだりょうた)君が大きな決断をしました。

それは、おそらく100年の歴史を持つ

日本ホッケー界においても、初めてのことだと思います。

16歳で、単身海を渡り、ホッケー競技力向上のためにオーストラリアでの長期海外留学を始めたのです。

本人へのインタビューを交えながら、このニュースをレポートしたいと思います。



TSUDA RYOTA 津田稜大

日本代表となり、オリンピックに出場したい

名古屋市出身、17歳。名古屋国際中学校でホッケーに出会う。名古屋国際中学校のホッケー部は創部2年目で全国大会へ出場。3年時にホッケー選手として生きていくことを考え、愛知スポーツ倶楽部に相談し、オーストラリアのパスにあるコモ・セカンダリー・カレッジへの長期海外留学を決意。2009年4月、パスへ向けて一人出発。まず、語学学校へ通う。12月にコモ・セカンダリー・カレッジに合格。2010年2月に同校へ入学し、現在に至る。

現在の状況

留学先 パース(オーストラリア)
所属学校 コモ・セカンダリー・カレッジ
(パブリックスクール)
コモスクールチーム所属(同クラス男女19名)
所属クラブ アクアイナスU18
(西オーストラリアリーグディビジョンA 5位)

※いずれのチームでもレギュラーとして参加している

——ホッケー留学の目的は何ですか？

津田 中学1年生でホッケーに出会い、3年間、毎日練習に励んできましたが、もっとうまくなるためにホッケーの盛んなオーストラリア(パース)でいろいろなことを学ぶためです。

——どこに所属していますか？ なぜそこにしたのですか？

津田 コモ・セカンダリー・カレッジのホッケーアカデミーに入学しましたので、スクール部門ではコモスクールチームに所属し、クラブチームではアクアイナスホッケークラブに所属しています。オーストラリアでは、学校対抗の試合と年齢ごとのクラブチームの試合があり、両方にエントリーすることが出来ます。このチームに所属したのは、ホームステイ先からも近いということ、何よりホッケーのための良い環境が整っているからです。

——行ってみて、驚いたことは？

津田 第一に体格の差です。そして、日本とは違って、子どもからお年寄りの方までホッケーを楽しんでいることです。

——今現在の問題点はどんなことがありますか？

津田 中学を卒業してすぐに留学をして語学学校に通い勉強していましたが、まだまだ自分の語学力に不安があり、高校生活で皆と授業を受けることが少し心配です。ホッケーに関しては特に問題ありません。

——学校の様子や1週間の予定を教えてください

津田 学校は月曜日から金曜日まで、午前8時45時から午後3時まで授業があります。パブリックスクールなので、数学や物理、歴史や語学など日本の学校と同じように授業があります。その中でホッケーのクラス

は同級生が男女19人おり、オーストラリアのU18代表選手もいます。みんな非常にレベルが高いです。ホッケーの授業は週に4回あり、基礎体力の練習や基本技術の練習がメインの実技と、ワールドカップや自分たちの試合の分析などのビデオセッションがあります。クラブチームのほうは、火曜日と木曜日の夕方に練習があり、金曜日にリーグ戦があります。

——ホッケー以外の日常生活は？

津田 友達とシティーに出かけたり、ホッケーショップに遊びに行ったりしています。あとは、家で(ホームステイ先の)家族とくつろいでいます。ホームステイはミニックスさんという4人家族のところでお世話になっています。

——これまでの留学で、どんなところが日本と違うと思いましたか？

津田 日本に比べて過ごしやすく、とても美しい街です。ホッケーの面では、日本で行わないような練習がたくさんあります。また、短時間でも内容の濃い練習であること、非常に細かいところまで見てもらえると違うと思います。自分では基本が身につけてきていると実感しています。

——あなたの将来の夢を教えてください

津田 将来、どこの国の選手ともホッケーができるようになりたいと思つて留学を決めたので、日本代表選手となり、オリンピックに出場することが僕の夢です。

——ご両親やご家族の方に対してメッセージをお願いします

津田 自分のやりたいホッケーに僕の背中を押して100%理解し応援してくれたことに感謝しています。ありがとうございます。期待に添えるように頑張ります。ぜひ僕の成長を見ていてください。